

令和2年12月1日

各報道機関 御中

国立大学法人山梨大学

新型コロナウイルス対策として入院患者モニタリングシステムを新規導入

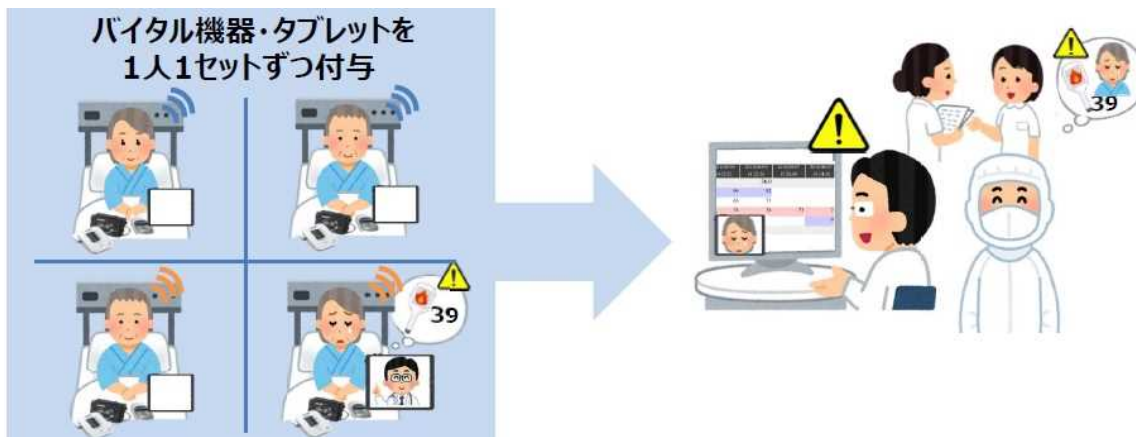
山梨大学医学部附属病院では、新型コロナウイルス感染症対策の一環として、入院患者モニタリングシステムの活用を12月1日から導入しました。

このシステムは本院に入院している比較的軽症の新型コロナウイルス感染患者さんの内、タブレット端末やバイタル測定器をご自身で活用できる方に対して導入するもので、患者さんご自身で測定した体温、酸素飽和度、血圧、血糖値などの情報を離れた場所から医療スタッフがモニタリングできます。

本院では7月から同システムの試験運用を開始し、検証を行った結果、正常に稼働し、以下の効果が確認されたことから本格導入を決定しました。

- ① 感染患者さんとの接触頻度の減少による感染リスクの低減
- ② 防護服の着脱や移動時間の減少による医療者の負担軽減
- ③ 使い捨て防護服等の使用量の減少による経費の削減

つきましては、本取組に関する取材並びに紙面等での情報掲載をお願いいたします。



<担当>

- 入院患者モニタリングシステムについて
山梨大学医学部附属病院 臨床研究連携推進部
特任准教授 田中 佑治
 - 広報全般について
山梨大学医学域総務課総務グループ 帯刀・清水
- <連絡先>

TEL : 055-273-6724 FAX : 055-273-7108

E-mail: nashi-is-med@yamanashi.ac.jp